

症例

アンチエイジングの観点からみた ニューロマスキュラーオクルージョンによるインプラント治療

貴島 伸樹

Dental implant treatment of Neuromuscular occlusion from an Anti-ageing point of view

Nobuki Kishima

I. はじめに

アンチエイジングの概念は、いつまでも若々しい身体を保つためには老化の原因である「抗酸化」「デトックス」「ホルモン補充」の3つの対策が重要だと考えられている。しかし、これらは食物摂食後の問題である。食は人の生命を維持するエネルギー源として絶対不可欠なものであり、「医食同源」が示すように健康の維持増進を司っている。即ち、アンチエイジングの基本は、食物を障害なく咀嚼、嚥下し脳機能を活性化して若々しい健康を維持することにあると考えている。その意味で、咬合崩壊した場合は健康維持の源である咬合を機能的咬合系に照らして再構築する必要がある。

II. 症例の概要

2005年4月18日初診 患者は、58歳男性。主訴は、下顎前歯の動揺、食事が思うようにとれない。症状は、右側の顎関節にクリックが触診される。インプラント治療を希望して当医院に来院した。

初診時の口腔内写真(図1)では、臼歯部の咬合支持のほとんどが失われており咬合高径の低下がみられ、さらに上顎前歯はフレアーアウトおよび動揺がある。

この症例は、将来咀嚼障害のさらなる悪化が予想されたため、パーテイカルディメンションの確立を含め、アンチエイジングの観点からインプラント補綴治療が治療オプションの1つであること、顎位の変位も予想され、代償性の症状が出ないように予防的観点ならびに審美的観点の両面からニューロマスキュラーオクルージョンの確立は不可欠であること、インプラントという新しい要素を含んだ咬合再構築が、生理的に適正に機能するかを見極めるために長期観察が必要なことを説明し患者の了解を得た。

III. 診断と治療方針

まず、K-7エバルエーションシステムを用いて機能的咬合系を評価した。その結果、切歯点の開閉

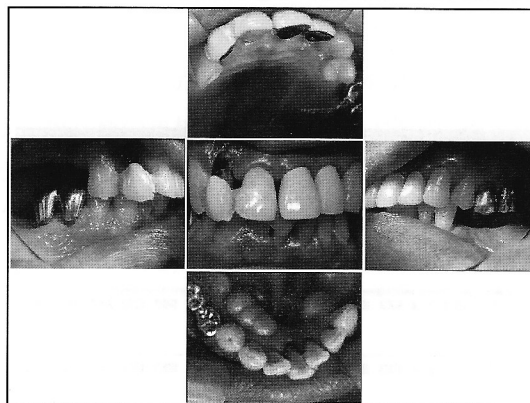


図1.

〒581-0086 大阪府八尾市陽光園2丁目4-13
2-4-13 Yokoen, Yao-shi, Osaka-fu, 581-0086, Japan